

◇下山の経過

四〇

高野山當局の會社側との交渉報告をきいた、榎原會長は起つて、罷業團の最後の肚を定める云ふので本部に引揚げて協議しよう提議し、一同は整然として座を起つて普賢院に引揚げた、安否を氣遣つて登山した妻や父兄達に圍まれて、最後の協議に移り、協議の結果、會社に飽くまで戦ふるに決議したが、高野線平井某他二三の幹部が、高野山當局が調停提議以來盛んに爭議團の分紛を計畫せしめた、闘志を失つた高野線の百十三名が、十九日午後一時旗を捲いて下山したのに誘發されたが、蓮華院の五十二名もこれに應じて下山するに至つたので幹部は更に別室に協議を重ねた末、陣容を立直すべく高野山の爭議團本部を解散して、下山することに決し、午後二時二十分普賢院前に勢揃し組合旗を先頭に警官隊に看視されつゝ全員下山の途につき、高野の聖山は元の静寂に歸つた其殿を承つて午後二時下山した榎原會長を中心とする最強硬派を目せられる約三百名は「爭議は打切らぬが一先づ下山する」ことに決し、藤林書記長引卒の元に午後四時四十八分高野下驛發列車二輛に分乗して悲壯なる決意を悲めつゝ、歸阪の途についたが、車内途中警戒の爲乗込んだ大阪府特高課、堺、島の内署の制私服巡査の監視嚴重を極め、列車が長野驛に着するや小競合の後藤林書記長以下十四名が檢束され、堺東驛にてまたもや東伊藏他十三名が檢束されたので、首腦者を失つた罷業團は全く手も足も出ず堺から大阪に近づくにつれ各

驛ごとに十名二十名と下車歸宅するもの續出し結局難波驛まで歸り着いたものは僅か二十名に足りない有様でその中十一名も島の内署に檢束されてしまつた、かくて最強硬派と目された一團も警察側の峻烈な取締のためちりかくばら／＼となり最初粉潰の本部で一度勢揃して陣容の立直しを計る作戦は全く失敗に歸した模様である。

(二十日大阪朝日)

榎原會長は午後六時四十八分高野下發で粉潰の同志會本部に向け出發したが、電車が長野驛に差かゝつた際警戒中の同署員に檢束された、檢束前の車中で同車した記者に語る「立つ鳥は後を濁さず今まで厄介になつたミロを廻つて來ました、敗軍の將兵を語らず言ふが僕はあく迄叫びたい、しかし我々は山を下つてもこの會社の暴壓に兜を脱いで泣寝入はしない、志を同じくする血盟の同志はかり必ず再舉する日を見てゐて下さい、大正十三年の爭議以來守りたてゝ來た同志會が、高野線一派の寢返りで動搖を來したのは残念である。

(二十日大阪朝日)

南海電鐵では二十日正午より幹部會を開いた結果高野山當局に聲明した通り副會長雜賀清治外二十九名を解雇した(二十一日大阪朝日)今回の爭議による被解雇者の住所氏名は別表の通り